

富永神社祭礼奉納

とき 平成二十四年十月五日(金)
午後四時四十五分始
ところ 富永神社 能楽殿

能 組

仕舞 七騎落 杉野莉子
八芦刈 長田悠那
島川村美幸

4:55分頃 狂言 盆山 盗人権田大悟 何某熊谷 啓
後見 天野雅夫

仕舞 巴 村田昂平
仕舞 養老 榎本奈月
三輪 本田洋子
葵上 岩崎葉子

小舞 貝づくし 大原正巳

5:50分頃 狂言 蟹山伏 山伏山本 勝 強力酒井淑規
蟹清川松佐
後見 加藤久和

休憩

6:50分頃 能 半部 シテ 杉浦史佳
ワキ 清水利高 大鼓 河村総一郎 笛 今泉英三
間 天野雅夫 小鼓 永田聡子

地謡 中島康夫 森田收
鈴木崇史 高林呻二
長田共永 高林白牛口二
渡辺敏康 竹内声位 晤

7:50分頃

狂言

花

折

新登意
住持

加佐

藤野

久泰

和三

立衆 立衆 立衆 立衆 立衆

加藤 水谷 山口 山田 天野 大原

賢一 至一 俊一 雅一 正巳

藤野 谷 至 男 一

加藤 賢一

後見 酒井 淑規

シテ 桜本 泰朗

8:20分頃

半能

高

砂

ワキ

太田 研司

大鼓 清水 利高

小鼓 森田 收

太鼓 中嶋 康夫

今泉 英三

地謡

鈴木 崇史
杉浦 史佳
長田 共永
渡辺 敏康

高林 伸二
高林 白牛 口二
竹内 声位 晤

(終了予定 八時五十分頃)

主催 本町区

狂言 盆山ほんさん

流行の盆山を知人の庭へ盗みに入りましたが、家人に見付けられあわてて盆山の陰に隠れました。それと知ったその家の主は、事を荒立てずに帰そうと、犬だ、猿だからかい始めます……。

狂言 蟹山伏かにやまぶし

大峯・葛城で修行を終えた山伏が、供の強力を連れ、故郷の出羽・羽黒山に帰る途中のこと、大きな沢までやって来たところで、突然空模様が変わりました。不安になって先を急ごうとする二人の前に現れた異様な風体の者、どうやら蟹の精のようです。蟹の精は、山伏達の慢心を「二眼天にあり、一甲地につかず……」と懲らしめようと現れたのだと言います。甲羅を打ち砕いて晩の汁にしておまおうと杖を振り回す強力ですが、素早い蟹の精に耳をは掴まれて、身動きが取れません。慌てた山伏は祈り伏せようと懸命に数珠を揉み始めます。

能 半部はしとみ

都、紫野雲林院の僧が、九十日にわたる夏の修行も終わり近くになったので、その期間に仏に供えた花々の供養を行います。すると白い花が開いたかのように、どこからともなく一人の女が現れて、花を捧げます。僧が女に名を尋ねると、ただ夕顔の花と答えるだけでその名を明かしません。更に問いつめると、五条あたりの者とだけいって、活けられた花の陰に消え失せます。――中入り――僧が不思議な思いをしていると、丁度、所の者がやってきて、光源氏と夕顔の物語を聞かせ、その女性は夕顔の亡霊であろうと述べ、五条あたりに弔いに行くことを勧めます。僧が五条あたりを尋ねてみると、荒れ果てた一軒の家に、夕顔の花が咲いています。僧が、夕陽が落ち、月がさし込むこの家の風情を眺め、「源氏物語」の昔を偲んでいると、半部を押し上げて、一人の女性が現れます。女は、源氏と夕顔の花の縁で歌をとりかわし、契りを結んだ楽しい恋の思い出を語り、舞をまいます。しかし、夜明けを告げる鐘と共に僧に別れを告げ、又半部の中へ消えて行った、と思ったが、それは僧の夢の中のことでした。

狂言 花折はなおり

連日の日和に恵まれた春の一日、下京辺の若者が花見に西山の寺を訪ねたところ住持が不在で、その上花見禁制になったと云って留守を預かる新発意に断られます。止むなく外から花を眺め酒宴となりましたが、酒好きの新発意は、外から聞こえる謡の声に誘われて、ついつい中に入れてしまいます……。

*新発意……しんぼち とは出家して問のないものです

九州肥後国（熊本県）阿蘇宮の神主友成は、都に上る道すがら、播州（兵庫県）高砂の浦に見物に立ち寄ります。たそがれ近い浜辺には吹くともない微風が松の枝にそよぎ、尾上寺の人相の鐘が響いてきます。そんな静かな景色のなかに、夫婦と覚しい抜群に年たけた老夫婦が墨絵のように現れます。友成は老人達を見て、高砂の松の由来を問います。老翁は古今集の序にある高砂住江の松を「相生」とよぶいわれを語り、また高砂を遠い奈良朝に、住吉を今の延喜の聖代にたとえ、松の緑の尽きないように御代の栄えも変わらぬという古代の言葉伝えます。友成はめ度たい由来をきいて大いによろこび、なお詳しい松の物語りをせがみます。

老翁は更に語をついで、松が四季を通じてその緑は変わらず、花は一千年に一度ひらくという「生」の象徴として古来から異国でも本朝でも賞賛されているなど、さまざまな例をあげ、二人は相生の松の精が仮に老夫婦の姿になって現れたのだと明かして沖の彼方に消えてしまいます。友成は日の出とともに高砂の浦を出帆して住江の岸に到着します。すでに夜も更け、中天高く月が澄みわたると、きらめく波間から住吉明神が出現して、国土安穩寿福千年を祝う神遊びの舞を舞います。波頭は青海波の舞樂、颯々と鳴る松風は聖代を謳歌するかも聞こえてめでたい限りです。

*半能・一番の能の前半をほとんど省略し、後半のみを演ずる演能方法である。